

令和6年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立若松小学校

I めざす学校像

学校教育目標

『豊かな人間性と粘り強い実践力をもった子どもの育成』

めざす学校像

- ・授業を大切にし、確かな学力を育てる学校
- ・心身ともに健康で、思いやりのある子を育てる学校
- ・家庭、地域とともに歩む開かれた学校

めざす子ども像

- ㊦くわく ㊧がやく子 ㊨なびあい ㊩ながる子
- ・確かな学力を身につけた児童
 - ・豊かな人間関係を築くことができる児童
 - ・健康な体と正しい心をもった児童

II 現状と課題

- 子どもたちは元気いっぱいにのびのびと学校生活を送っている。一方で、見守りや個別対応が必要な児童も在籍し、きめ細やかな継続した支援が大切となる。ボランティア、保護者、地域とともに様々な活動を通して、子どもたちの「やりぬく力(目標に向かって諦めずに頑張る力)」「社会性(協力して活動すること)」を育て、健やかな成長のために取り組む。
- これまでの全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果から、概ね基礎基本の学力は身につけている。しかし、経年の課題も見られるため引き続き子どもの実態に合わせて、授業改善や学力定着の取組を通して、組織的・継続的な検証改善サイクルを確立していく。
 - ・国語科の課題 「情報と情報の関係の理解」「書き表し方の工夫」「日常の敬語の理解」
 - ・算数科の課題 「目的の図形作成のための操作の見通し」「図形の面積の求め方からの判断」「具体物や図に表して、式と関連付けて考察する力」
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、県平均を上回る種目が多い。今後も運動しやすい環境を整え、授業改善を図るとともに、家庭の協力も得ながら運動する習慣をつけていく。
- 仲間の考えを受け止め、自分の考えと比べながら考えを広げたり深めたりすることは、まだ十分ではない。自分の考えを意欲的に伝えようとする子どもは多くなってきていることを基にして、新しい発見や考えの変化がうまれる話し合いや学び合いの活動を研究していく。
- 自尊感情が低く、失敗を恐れて積極的な行動がとれないところがある。
主体的に活動する姿が見られ始めている児童会活動や地域行事など**他者と関わる取組を通して、感情や行動をコントロール(自制心)しながら、自分にも良いところがあると思える体験を重ねさせることで、自己肯定感を醸成させていきたい。**
- 中学校区で連携した教育活動を進めることで、不登校の未然防止、学力向上、体力向上にもつながると考えられる。さらに連携促進を図っていく。

III 重点目標

人間力・学校力・教師力の向上

- 1 確かな学力の定着を図る学校づくり
- 2 豊かな心と健やかな体を育成する学校づくり
- 3 子どもが楽しく安心して学べる学校づくり
- 4 保護者・地域と連携し、期待と信頼に応える学校づくり

IV 具体的な行動計画

[確かな学力の定着を図る学校づくり]

- 1 積極的に授業公開を進め、学び合う授業をめざす。(2回以上/年)
- 2 専門性や力量を高める研修会への参加・還流に努める。(数回/年)
- 3 外国語教育、情報教育を推進し、豊かなコミュニケーション力の向上を図る。
- 4 家庭学習の内容の充実を図り、家庭との連携を促進する。
- 5 ICT端末の効果的な活用と読書習慣、学習習慣の定着を図り、自律して学ぶ態度を養う。

[豊かな心と健やかな体を育成する学校づくり]

- 1 あいさつ、安全、安心、朝ごはんの継続に重点を置き、教師集団が率先して取り組む。
- 2 発達段階に応じた体験活動とキャリア教育との連携促進を図り(各学年数回)、**自信をもった行動の基となる「自己肯定感」と協力して活動する「社会性」**を育成する。
- 3 人権教育を基盤にした集団づくりの力量を高めるとともに、**感情や行動をコントロールする自制心の大切さについて学級で指導すると共に、**道徳の時間の充実を図る。(道徳・人権授業を公開1回/年)
- 4 食の学習を通して、児童一人ひとりに適した望ましい食生活を身につけ、自ら健康管理できる能力を育てる。
- 5 基本的な生活習慣を確立し、健康で心豊かな生活が営むことができるよう、各教科や総合的な学習の時間などを通して健康教育を推進する。

[子どもが楽しく安心して学べる学校づくり]

- 1 めざす学校像実現に向けて、教職員との対話を積極的にもち、自校のミッションを共有するとともに、今日的課題に組織的に取り組む。(個人面談3回/年)
- 2 子どもとの温かい人間関係づくり、人権感覚の育成を図り、児童や保護者から信頼される学級経営に努め、不登校を生まない学校づくりをめざす。
- 3 危機管理マニュアルに基づいた実効性のある避難訓練等、危険の予知・予測や判断力を高める安全教育の充実を図る。(3回/年)
- 4 整理整頓・清掃の行き届いた過ごしやすい学校づくりを推進する。
- 5 総労働時間縮減に取り組み、健康でやりがいのある職場づくりをめざす。

【成果指標】

- ・月45時間、年360時間を超える時間外労働者の人数(0人)
- ・時間外労働を月1時間削減(18時間/月)・休暇取得を年1日増加(15日/年)

【活動指標】

- ・定時退校日を月2日実施し、設定した日の定時に退校できる職員の割合80%をめざす
- ・放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合80%をめざす

[保護者・地域と連携し、期待と信頼に応える学校づくり]

- 1 若松の文化やくらしに目をむけた地域学習に取り組み、郷土を愛する心を育成する。
- 2 学校自己評価とともに保護者・児童アンケート・学校関係者評価を実施し、次年度の学校改善につなげる。(1回/年)
- 3 コミュニティスクールを積極的に運用し、保護者や地域との連携をさらに強め、学校経営の参画を構築する。(6回/年)
- 4 学校・学年だよりの発行、ホームページの更新を継続的に行い、積極的な情報発信に努める。(学校だより2回/月)
- 5 ボランティア等の地域の人材を発掘し、本校にとって効果的かつ継続可能な活動について検討を進める。
- 6 千代崎中校区、大木中校区の学校園と連携した教育活動を進める。